

1988年出土の木簡



(長) 浜
(長) 鋤・鍬等の木製品が出土している。木簡の年代は、須

滋賀・高溝遺跡

たかみぞ

惠器の年代から八世紀中頃と推定される。

8 木簡の釈文・内容

(1)

「咄咲嗟□」

(75)×32×3 019

所在地 滋賀県坂田郡近江町高溝字大井
1
調査期間 一九八七年（昭62）一一月～一九八八年七月
2
発掘機関 近江町教育委員会
3
調査担当者 中川通士
4
遺跡の種類 集落跡
5
遺跡の年代 繩文時代～鎌倉時代
6

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

得た。

解説にあたっては、奈良国立文化財研究所の綾村宏氏のご教示を得た。

木簡の形態は短冊形を呈し、ヒノキ板目材を用い、下半部は欠損している。墨痕はわずかに残るが、赤外線カメラにより判読した。

符籙は確認できないが、呪符木簡である。

（中川通士）

高溝遺跡は天野川右岸の自然微高地に立地する。白鳳時代～平安時代の法勝寺跡の南側にある。圃場整備事業とともに緊急発掘調査において、繩文時代前期～鎌倉時代までの、掘立柱建物や溝状遺構などからなる集落跡を検出した。木

簡が出土した遺構は沼状遺構の第二層で、この沼状遺

構からは、太刀・鞘・櫂・
櫂・鍬等の木製品が出土し